

トンガ王国における南太平洋医療隊の活動：学校歯科保健プログラムの変遷

南太平洋医療隊は、1998年よりトンガ王国において学校歯科保健プログラム（マリマリプログラム）を中心としたボランティア活動を開始した。2006年からはJICA（国際協力機構）との連携で小学校を統括しているトンガ教育省をも巻き込んだ活動へと強化され、現在はトンガ保健省の自立したプログラムにまで成長し、トンガ全域の公立小学校で行われ順調に推移している。

2008年まで

1. 初期の調査(2000年)では,小学校6年生のDMFTが男子4.10 女子5.48であった.2007年の調査では,プログラムを6年以上実施した小学校の6年生では平均DMFTは男子1.48 女子2.10と軽減され,う蝕罹患率は89%から70%と減少した.
2. 2008年の調査でフッ化物洗口によるう蝕予防効果は,口腔全体で54.2%であった.
3. 乳歯う蝕は放置された結果,1年生児童における平均df歯数は8本と改善されず,器材の自主調達と人材不足も心配された.

新たに草の根技術協事業「トンガ王国における学校歯科保健活動向上の為のプロジェクト」を2010年2月より開始した。

1. 低年齢児童の乳歯, 幼弱永久歯のう蝕を軽減するため, 予防歯科室, 保健センター, 幼稚園で歯科保健指導, フッ化物歯面塗布とフッ化物洗口の推進, 初期の乳歯う蝕に対し薬剤塗布(サフォライド)等を行う。
2. 母子歯科保健活動
3. 関係者の能力向上を図るため歯科保健マニュアルを作成し, 新たな担い手を育成。

トンガ歯科スタッフは、教育省と話し合い

1. 歯科スタッフ、教育省管理者、教師からなる歯科保健マニュアル、教材を作成する編集委員会（構成員11名：歯科スタッフ5名、教育省6名）を自ら立ち上げた。
2. トンガ本島では予防歯科チームを1編成3名から2編成6名に増加し施設の巡回を強化した。
3. 児童には寄贈された歯ブラシを50セントで提供し、マリマリプログラムの充実に向けた資金として利用している。
4. 乳歯う蝕、幼弱永久歯う蝕を軽減するため、地域保健センターで行う母子保健システムの中で、幼児に対し歯科保健指導とフッ化物歯面塗布を開始し、離島では幼稚園においてデンタルセラピストが乳歯初期う蝕に対し薬剤塗布による治療を開始し併せてフッ化物歯面塗布を実施している。



JICAと共同事業を行って

1. MINUTESを交わし国と国の事業になりトンガ王国に信用が得られた
2. 南太平洋医療隊の活動資金が得られた
3. JICAと良い連携がとれた
4. JICAと意見交換もできた
5. 歯科保健について一定の理解を得られ道が開けた
6. JICAの要請主義を利用できた
7. PCMの研修に参加できた
8. 相手国の自立支援の視点で活動できる
9. 新たな広がりを与えることができた
10. 持続した活動ができるようになった
11. 会計、事務手続きが大変である



世界に広がる NGO+JICA 連携MAP

世界の様々な国々で、JICAと連携したNGOの活動が展開されています。このマップは、その活動の広がりや特徴を視覚的に示しています。

- 東アジア環境協行会 (EAC)**: 環境保護活動の推進。
- 認定NPO法人 アジア日本相互交流センター (JACAN)**: 国際交流の促進。
- 社会福祉法人 救世軍社会事業団**: 社会福祉活動の実施。
- 南太平洋医療隊**: 南太平洋地域の医療支援。
- 千代田 NPO法人 アルコリス**: 地域福祉の向上。
- 南米ひととこハボン**: 南米地域の開発支援。
- NPO法人 AMDA 社会開発機構**: 社会開発活動の推進。
- コンサベーション・インターナショナルジャパン**: 自然保護活動の実施。
- カラムニ アフリカ農村自立協力会**: アフリカ農村部の自立支援。
- 社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)**: 国際民間協力の促進。
- 財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン**: 福祉活動の推進。
- 東アジア環境協行会 (EAC)**: 環境保護活動の推進。

結論及び考察

- 本隊の活動は、トンガ王国に受け入れられ、歯科スタッフは概ね自立しマリマリプログラムを推進するようになった。
- 継続した活動により問題点を共有、把握でき、新たなプロジェクトを共同で計画実施中である。
- 経済的に自立できない国において、フッ化物応用を中心とした予防歯科プログラムを推進する事は、安価で安全な予防歯科システムを提供でき、相手国、国民の口腔の健康に寄与できる。